

【第1期】

平成30年度(2018年度)－令和元年度(2019年度)

鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会

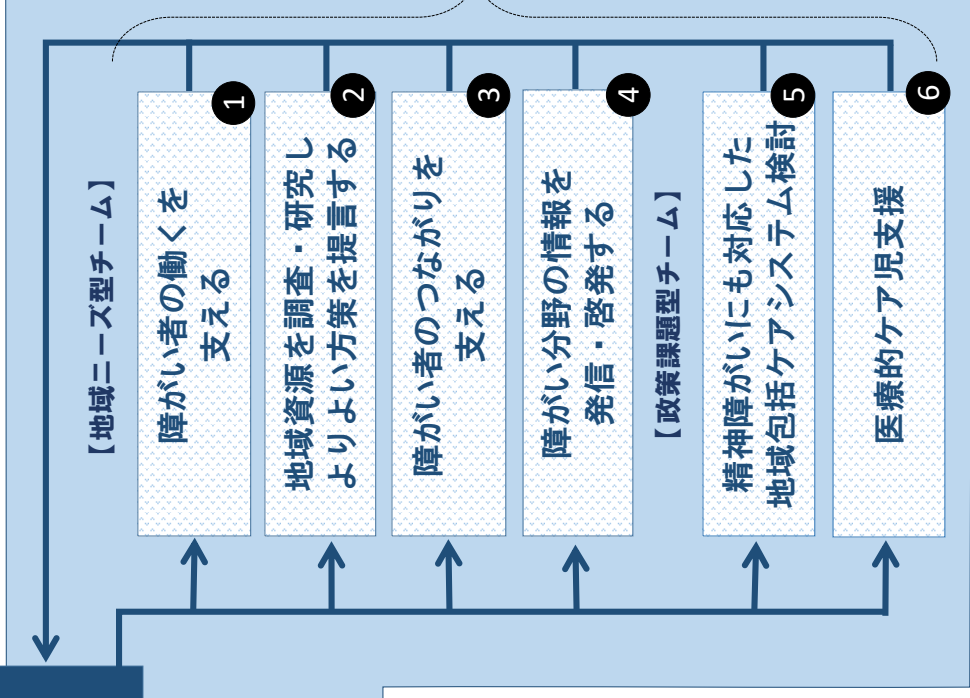
地域連携部会 テーマ別チーム 検討結果報告

①ワークショップ&報告会の開催、②地域課題の整理、③チーム間の調整、④本会議の議案等の整理を行う機関。各チームからの課題や要望については、大局的な見地から「地域の課題」であるか再度検討を行う。  
構成は、正副会長、各チームリーダー、事務局などとする。

鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会  
**本会議**

④ 本会議への報告・提案

③ 地域課題の検討



テーマ別チーム

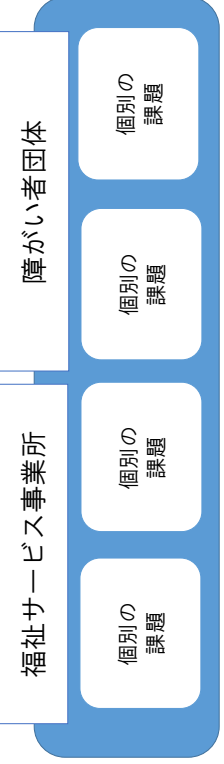
② 地域課題の整理・抽出

① 個別課題・ニーズの収集

ワークショップ (課題収集) & 報告会

課題・ニーズの収集

相談支援事業所



⑤ 協議内容のフィードバック

年1回程度開催

地域連携部会 (運営会議)

# 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会の年間スケジュール（全体・実績）

		令和元年度												
		2019年						2020年						
		12月	2月	4月	5月	6月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>本会議</b>  <b>地域連携部会</b>  No. 1 障がい者の働くを支えるチーム  No. 2 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム  No. 3 障がい者のつながりを支える  No. 4 障がい分野の情報を発信・啓発する  No. 5 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討  No. 6 医療的ケア児支援	12月18日(火) 第1回 13:30 大会議室 2月25日(月) 第2回 13:30 団体研修室 4月18日(木) 第3回 13:30 団体研修室 5月17日(金) 第1回 14:00 団体研修室 5月29日(水) 第1回 14:00 団体研修室 10月31日(木) 第2回 14:00 団体研修室 2月17日(月) 第3回 14:00 団体研修室	2月25日(月) 第2回 13:30 団体研修室 2月7日(木) 第2回 13:30 団体研修室 2月25日(月) 第2回 10:00 団体研修室 2月15日(金) 第2回 14:00 団体研修室 2月21日(木) 第2回 13:00 団体研修室 2月25日(月) 第2回 13:30 団体研修室	4月18日(木) 第3回 13:30 団体研修室 4月18日(木) 第3回 13:30 団体研修室 4月26日(金) 第3回 13:30 団体研修室 4月24日(水) 第3回 10:00 団体研修室 4月24日(水) 第3回 10:30 団体研修室 4月26日(金) 第3回 13:30 団体研修室	5月17日(金) 第1回 14:00 団体研修室 5月17日(金) 第1回 14:00 団体研修室 5月29日(水) 第1回 14:00 団体研修室	6月26日(水) 第4回 13:30 303会議室 6月17日(月) 第4回 13:30 団体研修室 6月25日(火) 第4回 10:00 団体研修室 6月17日(月) 第4回 13:30 団体研修室 6月26日(水) 第4回 13:00 303会議室 6月26日(水) 第4回 15:30 303会議室	8月 会議の進め方研修  9月 9月5日(木) 研修 9:00 501会議室 9月11日(水) 第5回 13:30 501会議室 9月3日(火) 第5回 10:00 団体研修室 9月13日(金) 第5回 10:00 501会議室 9月13日(金) 第5回 13:30 501会議室	10月 10月21日(月) 第2回 14:00 団体研修室 10月31日(木) 第2回 14:00 団体研修室 10月7日(月) 第6回 13:00 503会議室 10月30日(水) 第6回 13:00 団体研修室	11月 11月7日(木) 第6回 10:00 303会議室 11月14日(木) 作業 14:00 (配付準備) 11月7日(木) 第6回 10:00 303会議室 11月25日(月) 第7回 13:30 団体研修室	12月 12月9日(月) 研修 13:00 303会議室 12月25日(水) 第7回 13:00 303会議室	1月 1月24日(金) 第7回 13:30 303会議室 1月24日(金) 第7回 10:00 303会議室 1月20日(月) 第7回 10:00 団体研修室 チームビルディング研修 2月14日(金) 第8回 13:30 303会議室	2月 2月6日(木) 第3回 14:00 団体研修室 2月26日(水) 第8回 13:00 303会議室	3月 3月7日(土) 研修 13:15 東部学習セ 中止※		
	改編にともないチームを編成が年度末になったため 次年度もチームを継続することとした													
	キックオフミーティング													

裏面に続きます！

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮して、令和2年3月7日開催予定の「協議会主催研修」、同年3月10日開催予定の「発信・啓発チーム会議」は中止。令和2年3月17日開催予定の「報告会及びワークショップ」、同年3月24日開催予定の「第4回地域連携部会」は開催時期未定の延期となりました。

令和元年度 2020年 3月		本会議	
	地域課題の抽出・整理		
3月17日(火) 13:30～ 大会議室	3月24日(火) 第4回 団体研修室	延期※	延期※
報告会 & ワークショップ		テーマ別チーム	
		No. 1 障がい者の働くを支えるチーム	No. 2 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム
		No. 3 障がい者のつながりを支える	No. 4 障がい分野の情報を発信・啓発する
3月10日(火) 第9回 13:30 団体研修室			No. 5 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討
中止※	課題の収集 検討の報告		No. 6 医療的ケア児支援



表面もあります！

チームNo.	テーマ別チーム名	会議回数
1	障がい者の働くを支えるチーム	全7回

テーマ（地域課題）	
障がい者の働きたい気持ちを支える働く場と賃金の充実を考える。	
具体的検討課題	
具体的検討課題として「A. 障がい者が働ける場所が少ない」、「B. 事業所で働く賃金（工賃）が低い」の2つの課題を挙げた。2つの課題の共通項を直ぐに見いだすことができなかつたため、チーム内で2つのグループを作りそれぞれ検討を行った。	
検討結果	
<p>① 今後ビジネス分野との接点を持つていくため、障がい分野にも理解がありビジネス分野にも人脈がある方と意見交換の場を持った。</p> <p>② 就労系事業所ごとに「何をやっているか」、「何ができるのか」を調べて、今後の検討を進めていくための基礎資料を作成するためのフォーマットを作成した。</p>	
検討の中で出てきた課題	
<p>Aグループについては、雇用のミスマッチ（時間・場所・賃金など）を解決するために「実習先の開拓」、「企業説明会の実施」、Bグループについては工賃向上のために「自主製品・自主受注の模索」などのアイデアが出されたが、それらのアイデアを「実行可能な結論」まで具体化することができなかった。その原因は</p> <p>① いずれの問題も本質が、障がい分野とビジネス分野にまたがる問題でありながら、<u>ビジネス分野からの視点がなかったこと</u>。（ビジネス分野との接点や交流がほとんどないため）</p> <p>② <u>事業所ごとに「何をしているのか」、「何ができるのか」を把握できていなかったこと</u>。（今後、就労系事業所間で連携を進めていくためにも必要）</p>	
次年度に引継いで必ず実施してもらいたいこと	次のステップ（あくまで提案）
事業所の内容が分からないと、就労系事業所間でも協力や連携の検討がしづらい。事業所の内容の調査を行い検討の基礎資料を作成してもらいたい。	今回ビジネス分野との接点の端緒を開くことができたので、そこを広げて相互の交流を進めていって欲しい。
チームの運営面での反省点	
<p>【良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● チーム内で検討グループが2つに分かれてしまったが、検討の共通項を探すことで問題の本質にたどり着くことができた。</li> <li>● 工賃のことなど他の事業所のリアルな話が聞けた。</li> </ul>	<p>【もう少しこうすればよかったという点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 軸がブレてしまうことが多かった。毎回どこを目指しているのか、目標の確認が必要だと思った。</li> </ul>

チームNo.	テーマ別チーム名	会議回数
2	地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム	全7回

テーマ（地域課題）	
短期入所先が少なく緊急時などに使えない、肢体不自由者（児）の通所先などがなく、通学・通園に利用できる送迎サービスがないなどの地域資源を考える。	
具体的検討課題	
「移動手段がなくて通学・通所できなくて困っている人がいる」のは、「移動支援事業」の基準が原則通所・通学に利用できないためではないか。現行の基準が適当なものであるか調査研究する。	
検討結果	
通学・通所の移動手段について、どの程度の人が、どのような状況で困っているのかのアンケート調査を実施し、現状の把握を行った。アンケートの結果、約30%の人が何らかの要因で通学・通所に困ることがあるという結果であった。どのような状況で困っているかについては、自由記載欄をまとめたが、より詳細な状況把握については次年度への引継ぎとしたい。	
検討の中で出てきた課題	
基準の適否を検討する前にまず、どのような状況で、どの程度の人数が困っているのか（ニーズ）の全体像を把握する必要がある。→アンケートによって、どの程度の人が困っているのかの把握はできたが、適切な基準まで検討するためには、どのような状況で困っているのかの状況の詳細把握が必要になる。	
次年度に引継いで必ず実施してもらいたいこと	次のステップ（あくまで提案）
今回のアンケート結果の分析を行い適切な基準について提言をまとめてもらいたい。	通学・通所の移動について、どのような状況で困っているのかの状況の詳細な把握から着手するのが良いのではないかと。
チームの運営面での反省点	
<b>【良かった点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 封詰めなどの作業もチームとして積極的に取り組めた。</li> <li>● 直接制度に携わっていないメンバーもいたため客観的な意見を聞いた。</li> <li>● 概ねスケジュール通りに進み、形になった点は良かった。</li> </ul>	<b>【もう少しこうすればよかったという点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 議論が戻るが多かったので「良い会議の手引き」を参考に必ず前回の振り返りをすると思う。</li> <li>● どこまでやるのかの全体像が見えず手探りの部分があった。年間の検討の流れを参考にどこまでやるか、どこまでできるかを早い段階で決めた方がいいと思う。</li> </ul>

チームNo.	テーマ別チーム名	会議回数
3	障がい者のつながりを支えるチーム	全7回

### テーマ（地域課題）

ひきこもりや、社会と接点を持ちにくい方など、つながることが難しい方への支援を考える。

### 具体的検討課題

特定の人への支援に入ったときに、家族にも何らかの支援が必要でないかと感じることがあるが、分野外だとどこに繋がればいいのか、どう対応していいのかわからない。縦割りの分野を繋がられるような支援のフローチャートのようなものを考えたい。

### 検討結果

各分野の制度や機関の情報、分野ごとの問題などの共有は行えたが、そこから分野の壁を越えた具体的な支援の形を取りまとめるまでには至らなかった。

※ 対応に困った事例を持ち寄った事例検討において、恩田メンバーにより支援に必要とされるつながるための機能を8つに整理することができた。

① 解説機能	解説してつなぐ
② スピーカー・拡声器機能	情報が届かない方に「声を大きくして」つなぐ
③ パイプ機能	パイプを作って次々につなぐ
④ イメージ共有機能	支援や展開を示してつなぐ
⑤ タイミング機能	よりよいタイミングを示してつなぐ
⑥ +α情報機能	パンフレットや印刷物にはない情報を添えてつなぐ
⑦ 昇華・緩和機能	1つの事例の本質を昇華し、相対化・緩和してつなぐ
⑧ 移動機能	移動手段を作ってつなげる

### 検討の中で出てきた課題

分野を越えた支援のシステム作りを最終的な目標として、その第1歩として何から取り組めばいいのかの具体的な収束点を見出すことがなかなかできなかった。

#### 次年度に引継いで必ず実施してもらいたいこと

つなげるための機能について他のチームからも意見を伺いフローチャートのイメージを取りまとめてもらいたい。

#### 次のステップ（あくまで提案）

### チームの運営面での反省点

#### 【良かった点】

- 本音の話ができるようになってきた。
- 機能が言語化されそれを事例に当てはめて考えられたことが良かった。

#### 【もう少しこうすればよかったという点】

- 今回は手探りだったが、いつまでに何をしようという計画を話し合えばよかった。

チームNo.	テーマ別チーム名	会議回数
4	障がい分野の情報を発信・啓発するチーム	全8回

テーマ（地域課題）	
障がいや、障がい者を取り巻く環境を理解してもらうため、地域や市民を巻き込む啓発活動について考える。	
具体的検討課題	
一般の人へ対しての啓発のまえに、そもそも発信者側である支援者は本当に障がいを理解しているのだろうか。当事者（障がい者）と支援者にもズレがあり、支援者は「当事者の意思と支援者の想いがずれているかもしれない」ということを前提に支援していく必要があることに気付いてもらいたい。	
検討結果	
支援者の気付きを促すためオリンピック・パラリンピックのボランティア研修にも取り入れられている「障害平等研修」を企画した。 → 開催日が令和2年3月7日であったため、コロナウィルス感染拡大防止のため実施を見送った。	
検討の中で出てきた課題	
次年度に引継いで必ず実施してもらいたいこと	次のステップ（あくまで提案）
実施を見送った「障害平等研修」を是非実施してもらいたい。	研修の参加者を募るのが大変だったので、日時・場所を十分に検討した方がよい。（できれば平日かつ市役所で開催の方が集まりやすく準備もしやすい）
チームの運営面での反省点	
<b>【良かった点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援者として現場に密に関わっているメンバーが多かったため、現場のリアルな話が共有できた。</li> <li>● 研修の参加申し込みは定員を超える応募があったので、需要のあるテーマだと考えられる。</li> </ul>	<b>【もう少しこうすればよかったという点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修の時期をもっと早く設定できれば、研修の振り返りや、研修をどう次に繋げていけるのかの検討をもっとじっくりすることができたと思う。研修の時期を早くに設定するためにも、講師を確実に抑えられているかを徹底すべきだった。</li> <li>● 毎回の会議の司会者を固定としていたため、メンバーの当事者意識が持ちづらかった。</li> </ul>



チームNo.	テーマ別チーム名	会議回数
5	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム	全8回

テーマ（地域課題）	
<p>地域で暮らしていくにはどんな仕組みが必要かを国が進める「精神障がいにも対応した包括ケアシステム（※）」に沿って考える。</p> <p>※ 精神障がい者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障がい福祉、介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す。</p>	
具体的検討課題	
<p>メンバーで持ち寄った事例を検討することで現状の支援体制や問題点などを探り、適切な社会資源につなげられる連携体制を目指し、支援のためのフローチャートを作成する。</p>	
検討結果	
<p>精神科病院のソーシャルワーカーの方に参加いただき、医療と地域との連携を中心に事例検討を行った。地域が医療へつなぐ窓口、医療から地域へつなぐ窓口について整理、確認を行うことができた。</p>	
検討の中で出てきた課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成年後見の市長申立ての問題</li> <li>● 総合病院の窓口の問題</li> <li>● 介護保険移行の問題</li> <li>● 機関どうしの連携、機関内での連携の問題</li> </ul>	
次年度に引継いで必ず実施してもらいたいこと	次のステップ（あくまで提案）
<p>1年間の事例検討と整理を基に病院と地域の連携について場面別などのフローの作成について検討してもらいたい。</p>	<p>完成したフローの活用について共有し、さらなる機能強化を目指す。</p>
チームの運営面での反省点	
<p>【良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療と地域の意思疎通ができた。</li> <li>● 事例検討により地域の課題が見えてきた。</li> <li>● 病院の現場の方のお話が聞けて良かった。</li> <li>● 当事者の困りごとだけでなく、支援者が困った時にどうすれば良いのか具体的にわかった。</li> </ul>	<p>【もう少しこうすればよかったという点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間のスケジュールが上手く組めなかった。2月にはまとめに入った方がいい。</li> <li>● フローチャートの作成まで至らなかったため事例検討の回数を少なくし、その後の課題検討の時間を多くとった方が良かった。</li> <li>● 各会議のその日の目標やどんな話し合いをするかの確認がはじめにあると参加しやすかった。</li> </ul>

チームNo.	テーマ別チーム名	会議回数
6	医療的ケア児支援チーム	全6回

テーマ（地域課題）	
医療的ケア児を支援するための、連携体制について国が進める「医療的ケア児支援」に沿って考える。	
具体的検討課題	
①医療的ケア児の現状について、誰が何の役割をしているか等、現在の支援体制の全体像を把握する。 ②医療的ケア児の家族の生活やニーズを把握し、課題を明確にする。	
検討結果	
①現在の各機関の役割の確認、民間の訪問看護ステーション等を含めた社会資源等の利用状況などを県の実施したアンケート調査や事業所の担当者などを通じて確認した。 ②医療ケア児のつどいを関係機関と開催し、家族の子育ての現状や子育て上の不安等を把握することができた。	
検討の中で出てきた課題	
①医療的ケア児に対する実際利用できる福祉サービスは少なく、支援体制をつくるために関係者の関係づくりの構築が必要。 ②家族のニーズとして、災害時の対応への不安が大きく、具体的な支援について事前に確認し、家族、関係機関と共有できるシステムが必要。	
次年度に引継いで必ず実施してもらいたいこと	次のステップ（あくまで提案）
災害時の備え等についてまとめたもの（リーフレット等）の作成、また、関係機関との情報共有の方法も含めて検討してほしい。	保健所でも災害時の対策を検討中の為、保健所の方向性とすり合わせて進めていただけるとよいと思います。
チームの運営面での反省点	
<b>【良かった点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療的ケア児について、回を重ねるごとに共通理解の上で、課題やそれぞれの機関の取組を確認することができ、チーム全体が前向きな姿勢で参加していた。</li> </ul>	<b>【もう少しこうすればよかったという点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 話し合いに必要なテーマや内容について事前に参加者に周知し、準備できる期間を設けると、当日より議論が円滑にできたと思う。</li> </ul>